

びっくり! エコ新聞

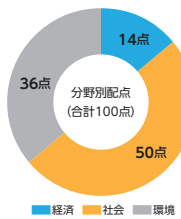
小学校のみんなは、かぞとといっしょにみてね



びっくり! エコ実行委員会
MAIL: info@eco100.jp

■全国市区 サステナブル度・SDGs先進度調査について

全国市区の「SDGs」総合ランク					
総合順位	自治体名(都道府県)	総合得点(100点)	経済(順位)	社会(順位)	環境(順位)
1	京都市(京都市)	70.37	7.20 (341)	34.07 (7)	29.10 (2)
2 位 ～ 10 位					
2	北九州市(福岡県)	70.13	6	相模原市(神奈川県)	68.50
3	宇都宮市(栃木県)	68.82	8	さいたま市(埼玉県)	68.33
4	宇都宮市(栃木県)	68.82	8	札幌市(北海道)	68.23
4	豊田市(愛知県)	68.57	9	堺市(大阪府)	67.88
5	岡山市(岡山県)	68.53	10	名古屋市(愛知県)	67.83



この調査は、2018年10月～11月に実施されました。分野別にみると、「経済」は一人あたり農産物産出額・製造品出荷額など7指標(14点)、「社会」は障がい者雇用率・貧困対策を含む子ども・子育て支援の実施事業など36指標(50点)、「環境」は再生可能エネルギーの導入容量・食品ロスを減らす取組など31指標(36点)で調査しました。



SDGsの17の目標を達成するには、地球レベルや国レベルでの取組に加えて地域での取組が欠かせません。そこで、持続可能な発展のために環境・社会・経済の3つの側面、全国の自治体を立てて実践しているかを調査したのが「全国市区・サステナブル度・SDGs先進度調査」です。この調査は、持続可能なまちづくりの先進モデルを示すとともに、それぞれの地域の課題を見つけ、さらなる

京都市のSDGsに対する取組

京都市は「循環型まちづくり」の実現に向けて、ゴミの分別・リサイクル推進、食品ロス削減に向けた2R(リデュース・リユース)の推進、新築住宅の省エネ推進などのプロジェクトに取り組んでいます。ランキンギングは、自治体を取り組むべき課題や重要と考えられる74の指標を設け、インターネットで実施した調査に各自治体の公開データを加えて、それぞれの指標ごとに点数をつけるという方法で行われました。



京都市が1位に!

SDGs先進度調査で

日本経済新聞がSDGsの観点から全国815市区を対象に行った「全国市区・サステナブル度・SDGs先進度調査」(日経グローバル誌掲載)で、京都市は総合ランキンングで全国トップとなりました。今号では、京都市のこれまでの取組と、評価のポイントを紹介します。

関西SDGsプラットフォームコメント

京都市の取組は関西発SDGsモデル

SDGs達成のために多様な技術や知見を活用し貢献することが期待されています。この関西では、関西SDGsプラットフォームを設立し、大学・自治体・企業・市民団体等が我が国のみならず途上国を含めた地球規模の課題解決に向け力を合わせていきます。京都市が市民ぐるみで取り組む持続的なまちづくりはまさに関西発SDGsモデルの代表です。



京都市は、燃料電池自動車を活用した体験型水素学習事業や、市内の企業や団体の皆さんへの貸出し等を実施し、水素エネルギーの普及拡大を図っています。

京都市の高い評価を受けたポイントは、環境分野の取組です。特に、市民ぐるみの省エネ推進により総エネルギー消費量をピーク時から約27%削減させたこと、ごみの量をピーク時の2000年度の82万トンから2017年度には41万トンと17年間で半減させたこと、また同じ期間に温室効果ガス排出量を新工

京都市の評価ポイント

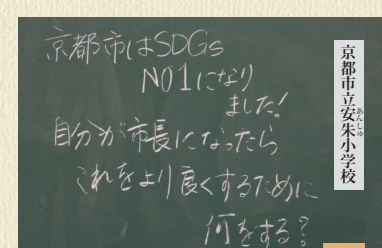
京都市は「循環型まちづくり」の実現に向けて、ゴミの分別・リサイクル推進、食品ロス削減に向けた2R(リデュース・リユース)の推進、新築住宅の省エネ推進などのプロジェクトに取り組んでいます。ランキンギングは、自治体を取り組むべき課題や重要と考えられる74の指標を設け、インターネットで実施した調査に各自治体の公開データを加えて、それぞれの指標ごとに点数をつけるという方法で行われました。



2月24日、安来小学校の子どもたちと地域の方たち70名近くが、京都市東部文化会館でSDGsの劇をしました。みんな17のピースを集めて、安来のまちを「ブラックアース軍団」から守るというもので、地域をあげて、SDGsに取り組んでいます。

木はCO2を吸収してくれるし、動物のすみかをうばうので、森林ばっさいをしないなど、自然もだいじに、というポスターを作ったり、各項目の活動を行うグループをつくる。

自然エネルギーを利用したいろんな発電を増やし、電気車を走らせる。ごみ収集車は電気自動車にする。そして、ノーマイカーデーをもっと増やします。



京都市立安来小学校(山科区)では、昨年度から、SDGsの17の観点から地域を見つめ直すマップづくりを通して、SDGs学習に取り組んでいます。同小学校の5年生・6年生に、「もしも自分が京都市長になったら何をするか」、一人ひとりの思いを書いてもらいました。

一人ひとりが助け合い、人のために自分ができることをしていけるようにする。また、国につなげたり、だれ一人残さないため、他の県にも伝える。

年に一回、環境大会(子ども:植物の世話、大人:ごみ集め)をすればいいと思います。町がきれいになり、自然も守ることができます。



障がい者の人も安心安全に暮らせるため、坂に手すりをつけたり、点字ブロックを増やしたりします。

SDGs達成のために国連や国、市役所だけでなく、市民の皆さん一人ひとりの取組も大事です。未来を担う次の世代の皆さんが、SDGsに真摯に向き合ってくださっていることを心強く思います。これからは知恵を出し合い、一緒に京都と地球の明るい未来を築いていきましょう!

学校の教科書を、使い終わったら下の学年に回すようにします。その理由は、ごみが減ること、子どもの、ものを大切にすることが育つからです。

各市の会議で相談して、「ごみひろいの日」をつくる。他の都道府県の市長と会議して、他の県のことを教えてもらったり、他の県に教えたりします。

SDGsは世界を守る17の目標だから、SDGsのことをみんなに知ってもらうため、SDGsパークをつくつといいと思います。

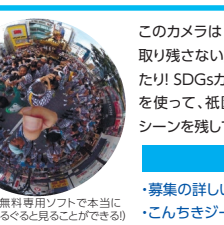
海外の教育が受けられない人々のために、京都市の小学校が、たとえば黒板消しなど学校で使うものに「京都にこにこ金」として上乗せして寄付を作り、ユニセフなどの機関を通して教育支援します。

環境教育に取り組み始めて2年目。学びの「つながり」と「深まり」を感じる1年でした。SDGsの行動目標をつなげて考えることで、「誰一人取り残さない」自身の行動を具体的に考えて実行するようにしました。SDGsが地域・学校・家庭を「つなげ」、一体となっている手ごたえを感じています。

360°とれるカメラ
RICOH THETA
モニター募集!



祇園祭創始1150年を記念して「こんちきじーズ～祇園祭から考える持続可能性 SDGsその先へ～」というプロジェクトが始動! そのプロジェクトの一環として、(株)リコー協賛により、360度(つまり上も下も右も左もすべて!)をワンショットで撮影できるコンパクトカメラ[RICOH THETA(リコー シータ)]のモニターを募集します。



このカメラは「誰一人取り残さない」で「誰一人取り残さない」というSDGsのコンセプトにもぴったり! SDGsカメラとも呼べるでしょう! このカメラを使って、祇園祭や、この先長く残したいと思うシーンを残してみませんか?

詳しくは裏面へ!

・募集の詳細お知らせ
・こんちきじーズプロジェクトとは?